

岩見沢聖十字幼稚園 施設関係者評価

評価年月日 令和5年 3月 4日

評価者氏名 瀧澤 聡

【園長の自己評価について】

今年度の園長の自己評価は、評価基準がオールAであった。長年、関係者評価をご依頼されているが、今年度は評価基準のBが一つもなく、これは初めてのことであったように思う。園長の保育運営等に対する自信の表れであり、それだけの営みを実践されていることが、「自己評価（園長編）の結果及び改善策」等から十分に伝わってきた。聖十字幼稚園の子どもたちの笑顔や成長等が常に保育で実現できるようにどれだけの労力と時間を惜しみなく捧げてきたかを感じることができた。次年度もこの状態を維持し、さらに園全体の保育が発展するようと思います。

【教職員の自己評価について】

教職員アンケートの結果からの全体的な印象は、まず、教職員が、保育に対して真摯に向き合っている姿やどの子どももしっかり支えていこうとする姿勢を読み取るができた。これは、この十年間で時折、園を訪問し、先生方と交流させてもらっていると、この幼稚園の伝統であるように思う。聖十字幼稚園に長く勤務されている先生方が、適切に後輩となる先生方に時には言葉で、ある時はその子どもに対する保育の姿勢で示してきたことが窺われる。保育の知見及びスキルが、先輩から後輩へ伝承されているシステムが職員間で無自覚なままであるが、存在しているように思う。今後は、聖十字幼稚園の保育のすばらしさを言語化して見えるようにしていくと、より勤務経験の浅い先生方は、理解がうながされていくように思う。

一方で、教職員からみると地域連携や、幼小連携、各分野における研修等は、「おおむねよい」が一桁や10%代の値になっており、例年の傾向と同様であった。中々改善がみられないのは、勤務の多忙さや保育が地域等との連携まで十分に広がりにくい等の要因が考えられる。したがって園内外での保育は、十分に機能しているので、徐々に毎年改善しにくい方面にも検討事項として対応することで、園の組織の発展がしやすくなると思われる。諸課題に本格的に向き合う時期にあると思う。

【保護者アンケート結果について】

聖十字幼稚園の教育理念に賛同、理解しながら子ども達の成長を喜び、感謝の気持ちがたくさん記述されていたことが伝わってくる。特に、教職員への感謝の文言がたくさん読み取ることができるので、保護者との関係性が良好であると伺える。

このたびは、保護者に対して、一般的な質問事項の他に、「自己肯定感」について質問していた。保護者の方からは、たくさんの回答があった。保護者の方が、真摯にこのことに向き合い、考察したことがわかる。「自己肯定感」の概念理解は適切であり、ご自身の子どもに当てはめて、見直そうとする姿勢は、回答された文字数の多さやコメントの内容がほとんど前向きなものであり、その質の高さに感嘆した。保育や子育てにおいて、「自己肯定感」は、とても大切な概念であり、そのことが保護者と教職員が共通理解する意義は大きい。ぜひともこのような文書から一步踏み出し、来年度は対面で保護者と教職員がこのことについて意見交換できたらと願う。

【その他】

次年度は、今年度の反省をもとに、労働環境の改善や園内外保育ばかりではなく、教職員が納得できるようなかたちでの地域等と保育の連携にも展開できるよう期待している。